

# 無災害、65万時間達成を振り返って

荘川営林署 箕浦 一治

## 1. はじめに

私達の担当区は、北は荘川村境いの蛭ヶ野から、南は岐阜署美濃担当区界の美並村、東は下呂署菅田担当区界、明方村の2町4村にまたがる国有林 1,320 ha、官行造林 1,470 ha及び苗畑 2.7 haを、基幹作業職員 6名と臨時作業員 50～70名程度で管理、経営している。白鳥担当区の特徴は、

- (1) 国道及び県道の通行比が高い。
- (2) 通勤距離が長い。
- (3) 現場は急峻ではないが、転石、浮石が多い。
- (4) 臨時の雇用量が 2,500～2,800 人工に達する。
- (5) 認定者 1名、訴え者が 5名いる。

昭和37年、岐阜署より荘川署へ移管された当時は、定期3名程度であったが昭和50年製品生産冬山事業開始と共に増員され、現有構成となった。

又流動化として、他担当区より年間150人程度受け入れ、作業を行っている。

こうした中、昭和44年に無災害65万時間を達成したが、同年4月19日林道事業日雇作業員が測量線の刈払中、はね返りによる災害が発生以来、再び65万時間達成したがうち69%は臨時雇用者で達成されているので、私の班の行ってきち安全活動と、臨時の安全活動も併せて発表する。

## 2. 造林事業の300事故通報の状況と分析

### (1) 事故発生曜日（図-1参照）

署の傾向は他署同様、月・木・金が多いが、担当区では、月曜日が突出して多い。

### (2) 発生時刻（図-2）

署、他署とも10時台、14時台であるが、担当区では、作業終了（AM・PM）前が危険時期である。

### (3) 部位別（図-3）

手・足・顔が多い。

### (4) どうした（図-4）

300事故ではないと思えるが、蜂によるものが非常に多い。

他局では死亡災害にまで至った例があり、蜂の種類、刺れ方、個数により重大と思えるので、300事故に含めた。

(5) ハットした(図-5)

足場の不安定が最も多く、物の落下(落石、切株の落下)が暑の傾向より多い。

(6) 作業内容(図-6)

造林事業の主たる作業より、運転中及び立木調査、巡検、歩行中など行動部分の多い作業に通報が多い。

このことを安全懇談会等で討議してみた結果、通常作業時は少し滑った、落ちた、刃物に危険を感じた等は、よくあるので300事故報告はしにくいのが、たまにやる仕事は、危険を感じて素直に報告される。慣れによる恐しさを暗示しているようだ。

### 3. 安全対策の取り組み

署の安全衛生目標は、現場からの意見反映を受け、毎年積み重ねる中で目標を立てたものであるから、その遂行に当っては、「自分達で守る」を原則に、300事故報告の分析を踏まえて、現場で対応できる体制の充実と目標を決めた。(表-1参照)

(1) 体制の充実に当って

班体制を充実させるには、まずチームワークであるが、白鳥担当区生抜きは1名しかおらず、造林、製品から振動機械使用不能によって来た人達の集団の為、それぞれ旧班イメージが大きく仲々なじまないで、酒の機会を多く持ち、言いたいことは言せ主義で、ようやく班員の心が通じあい、チームワークが良くなった。

推進委員は自分達で決め、安全当番2名が週番制で実施する様になってから、非常に良い結果を得ている。

(2) 健康管理

月曜日にハットしたことが多いことは、家庭でのあり方とボケにもあるため毎朝、特に月曜は顔色を点検し、「オーイ、どうや」と気軽に声を掛け合い、ボケなおしと、健康把握に努めた。

又、振動障害認定者、訴え者については私生活チェックを厳しくした。

(3) 安全対策と作業指示

担当区の仕事は多種多様に渡り、毎日、班員の中でも作業が異なる場合もある。

これらを適切に対処するため、班長兼安全推進委員は、過去の災害事例等を分析し、地形、天候、段取り、用具等に応じきめ細かな注意事項に、安全対策を含めてTBMで指示している。

また不安全行動に対しては、自分のことと当てはめて見つけ、お互いが厳しく注意しあえる環境にした。

(4) 蜂対策

網、ヘルメット銀紙など現場に取り入れてみたが良い結果を得られず、現在は刺されたあと、薬で治療しているが、更に対策を検討してゆきたい。

(5) 通勤災害の防止

車輛運転中の300事故報告が多い。

このことは、一つ間違えば重大災害につながり、又死亡災害にもなりかねないので、次のことを実施した。

ア 始業・終業点検の確実な励行と定期点検の実施、不備ヶ所の促修理

イ 安全当番は助手席に乗り、運転手の補助者として、安全運転に努めた。

ウ 運転者は全員シートベルト装着後、発車することを義務づけた。

エ 冬期間のスノータイヤ、チェーンは早目装着とし、スコップ、車止め等も常に携行した。

(6) 臨時雇用の安全対策

日雇は通常安全管理がしにくい所であるが、次のことを実施し成果を挙げた。

ア 入山時に作業及び現場注意事項を十分行った。

イ 班長格を設けた。

ウ 基本動作の徹底など、作業基準を守らせるよう指導した。

エ 常々、巡視、点検等を実施し、昼食時等を利用し安全懇談を行い、無災害を継続していることを含め、安全意識の高揚をはかった。

(7) 冬山への対応

特別に冬山対策用の懇談会を実施し、対処している。

(8) 目標設定

300事故分析を基に、作業条件、現地、気候等により、月毎及び作業変更時に目標を作って進めている。

その中で特に無災害継続に当っては、「今年は無災害で」というような、大きな目標を決めないで、「安全大会まで」「夏山終了まで」と期間を区切り、期間の積重により無災害に努めている。

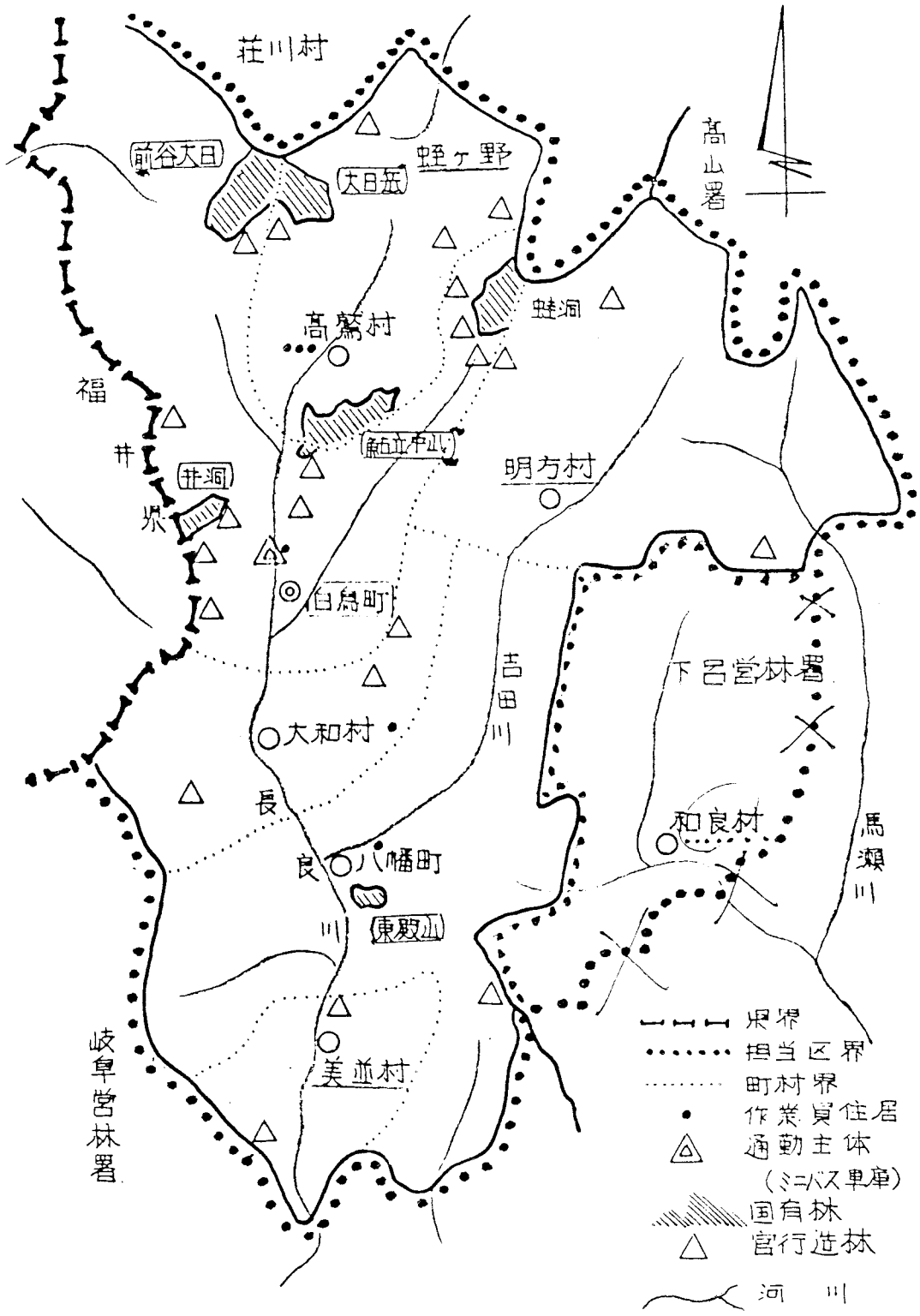
#### 4. おわりに

以上述べたように、他の班の安全活動とかわりない平凡な安全活動の積み重ねが、班員及び臨時作業員の安全意識の向上につながり、一つの結果として表われたことに過ぎない。

しかしながら、過去14年間で65万時間表2を達成はできたが、300事故通報を振り返って見ると、一つ間違えば重大災害、死亡災害に結びつくものがあることを思うと、必ずしも十分な安全活動とは思えない。

今後は、この65万時間無災害を足場に、今まで以上に安全活動に努め、70万時間をめざし明るい職場作りに努めたい。

部内概況図



300 事故通報分析 ( S 54. 4 ~ 57. 11 )

図-1 事故発生曜日別

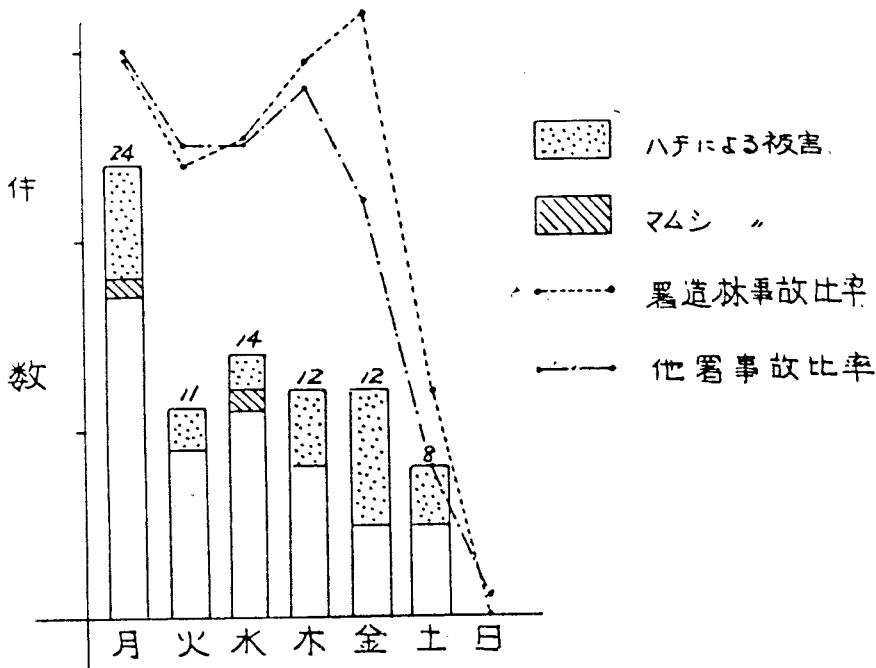


図-2 発生時刻別

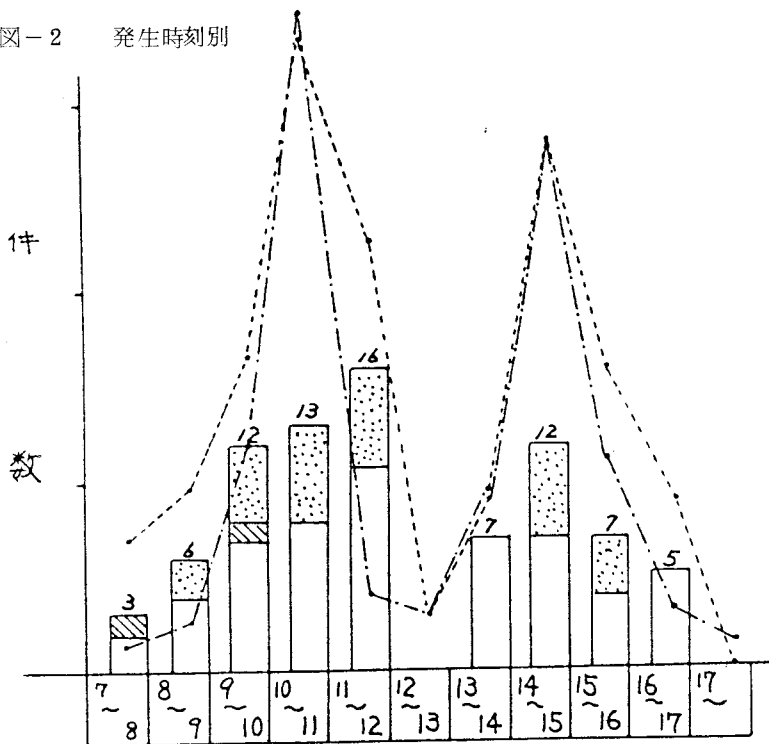


図-3 部位別

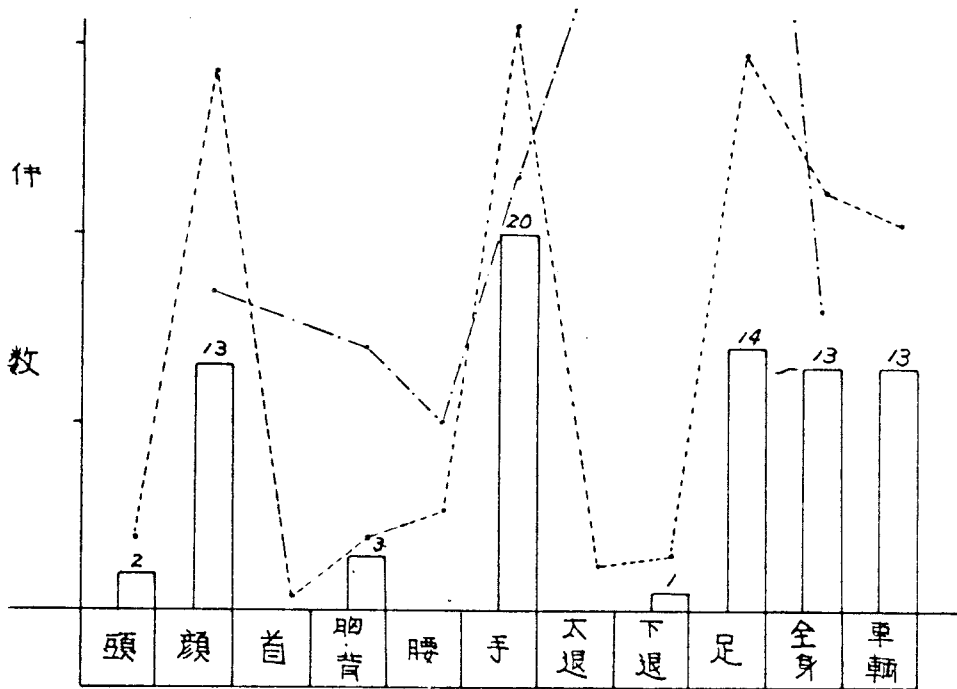


図-4 どうした別

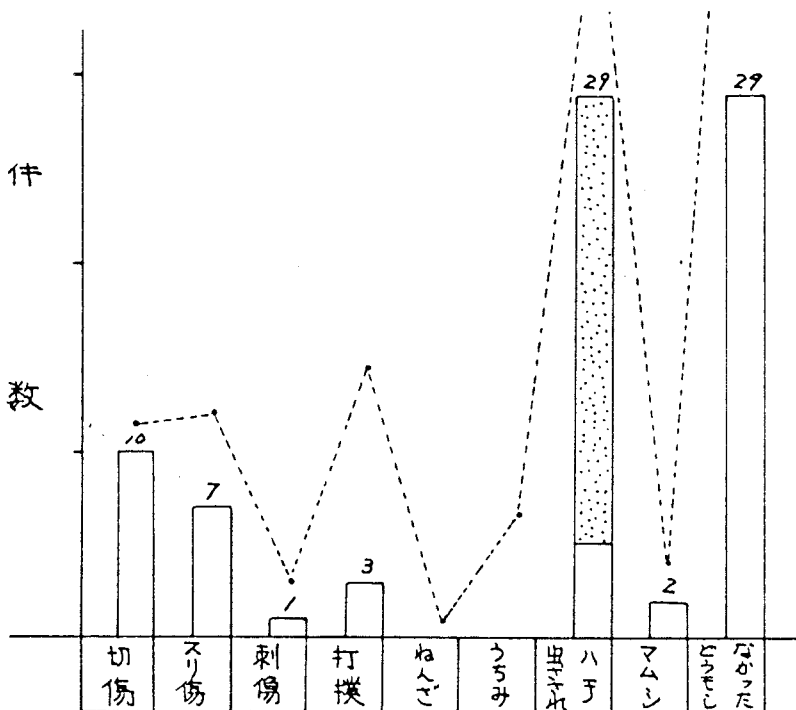


図-5 ハットしたこと別

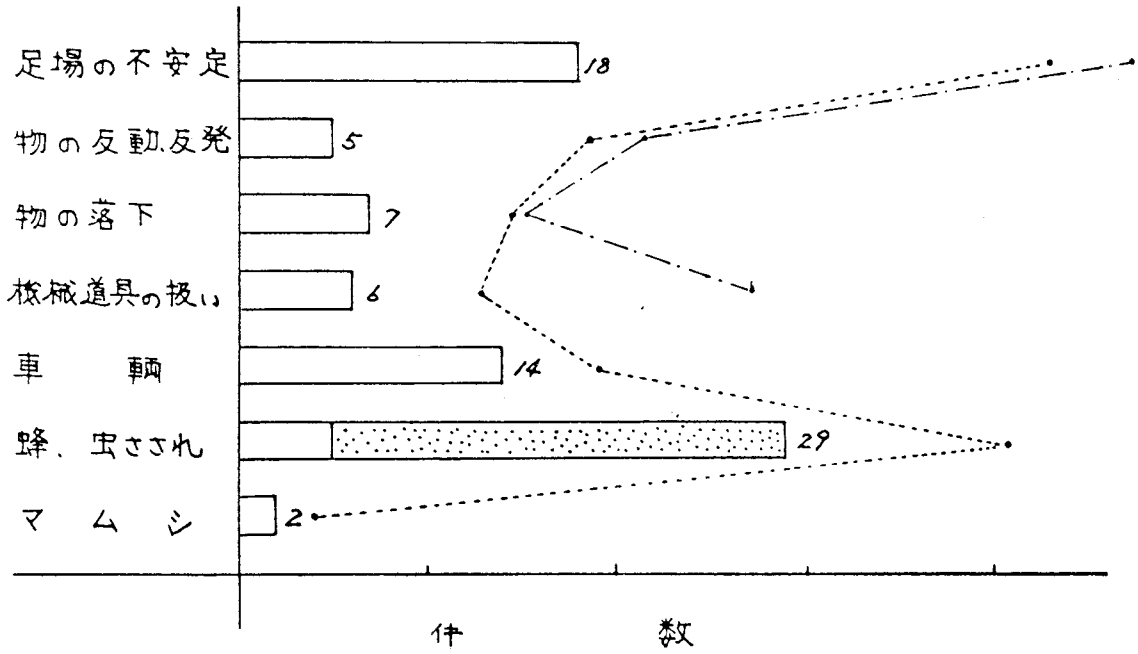
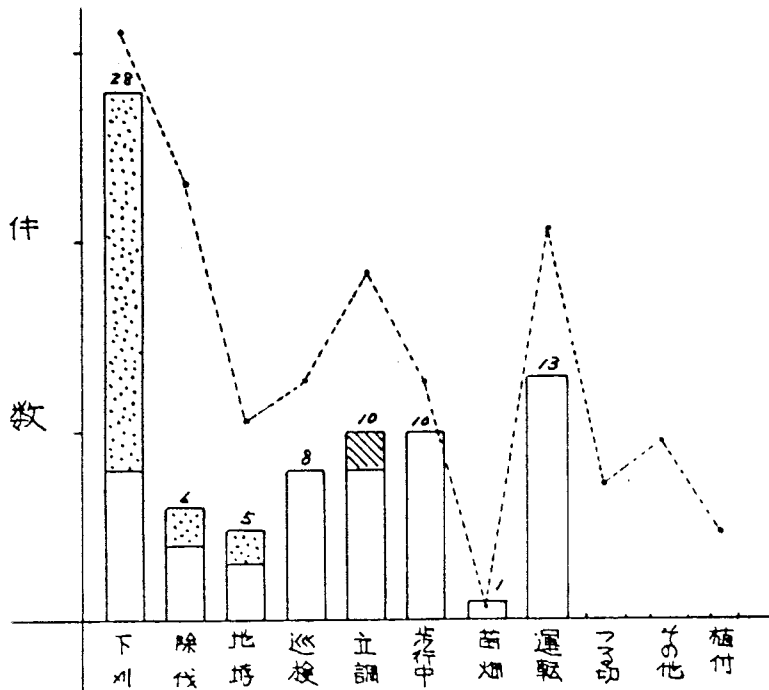


図-6 作業内容別

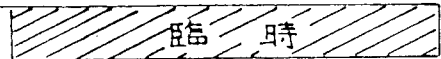
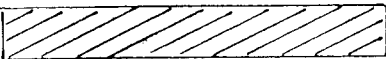




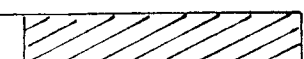



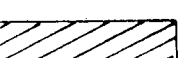
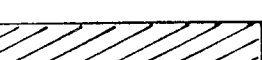




表一 昭和57年度、安全衛生実施目標

署 目 標	担 当 区 目 標	現場目標例
<p>1. 活動的な安全衛生管理体制の確立            ○衛生管理者から、安全推進委員、班長まで相互緊密連携を図り、指示弁現場まで徹底する取組作りの推進</p> <p>2. 作業環境整備、基本動作の励行により、行動災害を起さない。</p> <p>3. 安全懇談会、TBM等、日常安全衛生活動の積極的推進            ○安全懇談会の充実と、管理者の積極的参加</p> <p>4. TBMの充実            ○「緑十字の日」の設定、安全日誌、300事故通報の有効利用</p> <p>5. 取業病予防</p> <p>6. 交通安全講習と、防衛運区の列行</p> <p>7. 私傷病の予防            請業事業体の安全指導</p>	<p>1. 署目標の遂行と、体制の充実            ○無災害が継続できる様、期間を区切る</p> <p>2. 基本動作の励行            上下作業の厳禁と、作業配置の適正</p> <p>3. 安全臭校などの充実            ○衛生巡視計画の実施、安全懇談会の充実            ○作業用具の点検表示（カラスアプレー）            ○作業反指と、TBMの種実な実施            ○「緑十字の日」災害、300事故の分析活用            ○月々は、仕事変更研に目標を設定する。</p> <p>4. レイノ者、前え者の健康把握</p> <p>5. 交通災害をなくす            ○運転者は、全乗員若き確認して発車すると台言葉に、シートベルトの着脱強化</p> <p>6. 私傷病の予防            「互に顔を見合う運動と、「オイ、どうや」となすね合う</p> <p>7. 日症者に班長格を設け、TBM等を乗務させる、巡相指導の強化。</p>	<p>○安全入会まで無災害で</p> <p>○刃物の取扱いに注意する</p> <p>○近接作業には声を掛け合う</p> <p>○現場が多りので、足元に十分注意を払う</p> <p>○逆練、逆足は動作違反、ケガのもと</p> <p>○暑さに負けない安全作業、健康保研、ハチマムシに気をつけよう。</p> <p>○冬山前始まで無災害で</p>



表-2 無災害延時間と臨時の割合

年度	年度別 無災害延時間	年度別延時間に占める臨時の割合	臨時の率 %
44	68985		83
45	69192		74
46	55495		81
47	42893		75
48	37059		71
49	42422		79
50	50005		74
51	43448		62
52	35782		56
53	37136		55
54	40845		62
55	51510		70
56	53617		52
57	27785		51
計	656174		69